【東小倉小学校　SDGs の実現につなぐ道徳教育のグランドデザイン　２０２１年度】

何ができるようになるか　〇育成する資質・能力

持続可能な社会の創り手となることができるようにする。（「学習指導要領前文」）

→**そのために必要となる**「各教科等の資質・能力」、「学習の基盤となる資質・能力（言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力）」、「現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力」を育成する。　⇒**「進んで伝えよう　思いを受け止めよう　豊かにかかわり合おう」**

〇**自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性（道徳的判断力、道徳的心情、実践意欲と態度）を養う。**（道徳教育の目標）

〇**自らの人生や社会における答えが定まっていない問いを自分事として受け止め、多様な他者と議論を重ねて探究し、「納得解」（自分が納得でき、周囲の納得も得られる解）を得るための資質・能力を育成する。**（道徳教育充実の背景）

何が身に付いたか　〇学習評価

学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育における評価（個人内評価）

〇教育活動全体で見られた児童の**道徳的な行為**を含めて評価し指導に生かす。

特別の教科　道徳における学習評価（個人内評価）

〇一定の時間的なまとまりの中で、児童の**学習状況**や**道徳性に係る成長の様子**を継続的に把握し、大くくりなまとまりを踏まえた評価として行う。

〇児童の成長や努力を積極的に認め励ますことによって、**児童が自らの成長を実感し、更に意欲的に取り組もうとするきっかけとなるような評価**を目指す。

児童の実態

・「～したい」と意欲的に活動に取り組むとともに、他者からの助言を素直に受け止める児童が多い。

・見通しをもって計画的に動いたり、臨機応変に判断して動けなかったりすることがある。

・多数派の意見に流されて適切に行動できなかったり、人によって態度を変えたりすることがある。

児童の発達をどのように支援するか　〇児童の発達を支える指導の充実

・**ふれあい班活動を中心に**日常の様々な活動を道徳的実践の場と位置付け、**見通しをもった実践と自己評価及び他者評価を充実させることで、**児童のキャリア発達を促す。

・**ことばのたまごの時間を充実させ、楽しく**書いたり話し合ったりすることを通して、考えをつくったり広げ深めたりするための**書く力、話す・聞く力、話し合う力を育てる。**

・**学校スタンダードに基づいた分かりやすい指導**に努める。

目指す児童の姿（重点目標）

〇**自分の姿を振り返り、見つめ直せる子。自分を知り、できることに気付く子。**（Ａ個性の伸長）

〇**他者を認め、共につくりあげる子。**（Ｂ相互理解、寛容）

〇**場面や人に流されず、自分事として判断し行動できる子。**（Ａ善悪の判断、自律）（Ｃ公正、公平）

何を学ぶか　〇教育課程の編成

・**道徳教育の基盤として「あたたかな聴き方・やさしい話し方」を軸にした学び方を、すべての教育活動を通して学ぶ。**

・多面的・多角的に考えるための**情報活用の仕方や思考の視点を学ぶ。**

・Chromebook を活用する際にも必要な情報モラルを学ぶ。

・道徳教育で育成を目指す**道徳性が、SDGs の実現にもつながることを考慮して教育課程を編成する。**

どのように学ぶか　〇授業の実施

・**全教科等で「あたたかな聴き方・やさしい話し方」をベースに「聴いて考えてつなげる」授業を行う。**

・**それぞれの教科等の特質に応じて育まれる道徳性との関連を図った道徳教育を展開する。**

・特別の教科道徳においては、SDGs の目標との関連を考慮しながら、**本気で考えたくなる学習課題を設定する**とともに、考え議論することで道徳性が養われるよう、国語科を中心に**身に付けた言葉の力を積極的に発揮・活用させる。**

・**保護者や地域の方、教職員等の多様な価値観と出会い対話する機会を重視する。**

実施するために何が必要か　〇指導体制の充実、家庭・地域との連携・協働

・「SDGs の実現につなぐ道徳教育のグランドデザイン」「学年グランドデザイン」に基づいたカリキュラム・マネジメントにより、教育効果の最大化を図る。

・「特別の教科道徳の年間指導計画」を作成・更新するとともに、学習課題や教材活用の質を高めた実践事例を蓄積し、次年度以降のカリキュラム開発に役立てる。

・保護者や地域と共に児童の道徳性を養うことを重視し、感染の防止に留意しつつ、学校内外の人的・物的資源を積極的に活用した教育活動の創造に努める。